

(基本計画(案) - 全体事項 - への質問等に対する) 回答票

第七次筑後市総合計画審議会

番号	頁	提出者	種別	内容	回答
1	6～7頁	川口委員	質問	全てをまだ確認してない上ではありますが、各政策に『地域で支える』『共助』『地域との連携』という言葉が出てきますが、その前提となる市民同士のつながりを、市として意識的に育む視点は総合計画のどこに位置付けられているのでしょうか。 これから人口減少が進んでいくうえで、何の戦略も、何の働きかけも無い状態のなか、地域で支え合ったり共助を行ったりしていくことは困難です。 各項目でその視点からも確認していきたいとは思いますが、どこかの項目に、しっかりと「市民同士のつながり」について入れる必要はないでしょうか。	第七次総合計画では、その戦略として「縮む社会に賢く対応する」という考え方を基本的な視点として位置づけており、ご質問の「市民同士のつながり」についてもこの考えに基づき、時流に応じたやり方で育んでいく必要があるものと考えております。 そのうえで、「市民同士のつながり」については、施策4-1「市民協働の継続」の【課題】及び【取組の方向性】で関係する記述がなされているところであり、これに対し必要な記述の追加を求めたり、具体的方針の確認を行う必要がある場合、当該施策の審議においてご議論いただきたいと思いますと考えております。
2	—	富安委員	質問	目標値は現状値より高くなる傾向になるかと思いますが、一部の項目において目標値が低い箇所がありますが、その理由は何でしょう。 ・2-2 自分にはよいところがあると思う小学6年生の割合 (87.7%→85.0%以上) ・2-2-2 人が困っているときに進んで助ける児童の割合 (95.3%→90.0%以上) ・5-6-1 燃やすごみ組成に占めるリサイクル可能な資源 (紙類・廃プラスチック等) の割合 (33.9%→25.0%)	各施策、基本事業においてはそれぞれに「めざす姿」を設定しており、筑後市が施策・基本事業の実施を通じて実現しようとする目標を記載しています。成果指標は目指す姿にどの程度近づいたかを確認するための代表的なモノサシではありますが、市民生活や地域の状況は多面的であり、一つの指標だけで「めざす姿」のすべてを表すことはできません。このため、各施策領域において、「めざす姿」に近づいているかについては、目標値の達成・未達成の確認に始まり、数値の推移、背景にある要因、市の取組の関与、関連データや現場の状況等をあわせて分析を行い判断する必要があります。

					指標の数値の達成・未達成のみで単純に成果を判断しようとする「数値至上主義」に陥ることは避け、「めざす姿」に近づくために、計画期間中にどの程度の水準の目標値を目指すべきかという大まかな基準として成果指標を捉える必要があると考えています。 具体例を示すと、消防・救急に対する市民満足度は現状97.9%とすでに高い水準にあり、計画上は水準の維持を方針として明記しています。 一方で、未だ現状値が低く、国の重点施策でもある「こどもの権利を知っている市民の割合」については現状値76.2%を90.0%の高水準に引き上げる目標値が設定されています。 水道や消防・救急のように、市民の生命と暮らしを直接支える基盤的な分野は、水準が高いからこそ、その水準を落とさないことが極めて重要な行政目標となります。加えて、人口減少、施設の老朽化、物価高騰等の下押し要因が働く中では、現在の水準を維持することそのものに相当の努力を要します。目標値が現状値と同水準、あるいはこれをやや下回る設定となっているものは、その実現可能性を率直に反映させたものであり、施策を後退させる趣旨ではありません。 このように、各施策・基本事業の成果指標の目標値については各施策が置かれている様々な状況を基に設定されていることから、各施策の審議において、施策を取り巻く状況や目標水準に対する考え方を確認いただいたうえでご審議いただきたいと考えております。
--	--	--	--	--	---